

ビオトープ管理士100人超え

全社員の約4割 独自の環境対策提案

加藤建設

加藤建設(愛知県蟹江町、加藤徹社長)は、環境対策の一環として社員に資格取得を奨励している「ビオトープ管理士」について、有資格者数が100人を突破したことを明らかにした。今年8月時点で112人の有資格者が在籍し、これは全社員(現在272人)の約4割に当たる。同社は建設事業と自然との調和

を目指し、工事着手前に社員が集まって「エコミーティング」を開き、独自の環境対策を提案、実施している。今後、有資格者をさらに増やし、こうした環境対策活動を一層充実させていく方針だ。

ビオトープ管理士は日本生態系協会が資格試験を運営・実施する民間資格。計画と施工の2部門があり、難易度によって1級・2級の2階級に区分されている。同社の有資格者は1級ビオトープ施工管理士4人、2級ビオトープ施工管理士(計画5人含む)が108人の計112人となった。

同社は、2007年に地元小学校に寄贈したビオトープ施設で、地域との協働によるホタルの育成に成功したことをきっかけに、環境対策を本格化させた。建設業が環境復元にもっと積極的に取り組めば、地域の人々も喜んでくれるだろうという発想の下、09年に独自の環境配慮活動「エコミーティング」を開始。環境対策の知識を持った人材の育成も強化した。

エコミーティングは受注した工事の着手前に、社員が集まって自然配



エコミーティングで提案された水路の生き物保護活動の様子

慮、住民配慮、コミュニティを出し合う。具体的にケーション作りの三つの基本項目についてアイデア

結果に基づく在来種の保護と外来種の防除、調査結果の掲示による環境啓発、「工事かわら版」の配布や地元の祭りへの参加などを行う。提案内容によっては発注者に設計変更を求めるケースもあり、「建設地にあった樹齢数十年の樹木を発注者にお願いで残してもらったこともある」(同社自然環境課)という。

エコミーティングは今年で8年目。同時に進めてきたビオトープ管理士の資格取得も毎年有資格者が増加し、5年で100人を突破した。同社は「最終的に全社員の約8

割を有資格者にするのが目標」という。加藤社長は「建設業は環境を破壊するのではなく、人々が求めるものをつくるのが仕事。豊かな自然をいれたいく考えだ。」

環境など、良いものを次世代に残すことが建設業の未来にもつながる」と今後環境対策に一層力を